



夏祭り 8/8(土) 第二あゆみの家 (左、カラオケ 右、射的)

あゆみの家

No. 125号

標準予防策

感染対策で最も重要なことは、「標準予防策」であり、現場での遵守・徹底が
chance。

これは先日、岐阜市内で開催された新型コロナウイルス感染症対策に関する
施設職員向けのある研修会での講師(感染症専門医)の言葉です。

「標準予防策」とは、「全ての患者の汗を除く、血液、体液、などの温性生
体物質は、感染性があること」を前提とする感染予防策」であり、「感染症(十)
だから」を「行つ」という対策ではなく、「いかなる医療環境でも、医療者が
常に実施すべき感染予防策の基本」であると説明されています。(研修会資料)
その予防策の例として、①手指衛生(手洗い、または手指消毒)や ②個人
防護具の使用(マスク、手袋など)があります。

新型コロナウイルス感染症防止対策が社会全体に呼びかけられる中、今や、医
療現場での基本的な予防策が地域社会でも広く求められるようになったとい
うことでしょうか。

感染経路には、飛沫感染、接触感染、空気感染があり、スポーツクラブや合
唱団、ナイトクラブ、飲食店、事務所など岐阜県で当初発生したクラスターの
感染経路は、おそらく飛沫感染が主体のことでした。そして、この飛沫感染
の予防にマスクが必要になるわけです。 飛沫感染予防 = マスク

マスクは、本来は症状のある人が他人につくさないように着用すべきもので
今、全員マスク着用が促されている理由は、全員が感染している(無症候性病
原体保有者である)可能性があると考え、咳エチケットの一環として着用す
るものと説明されました。

わねわねが守るべきこととして、以下のことが挙げられています。(回覧資料)

○常にマスクと手指衛生を遵守する(新しい標準予防策)

○体調不良時は出勤しない。

○食事の際は、横並びに座り、会話をしない。

○日常生活における「密」を回避する。

○海外や国内の流行地域への渡航・訪問も避ける。

障害福祉サービス事業所等の現場では、マスク着用が難しい方々が多いなど、
前述のこの徹底が困難なことも多々ありますが、支援者はその手立てを
しながら感染防止に努めています。

コロナ禍に思う

理事 名和 桂子



毎日、新型コロナウイルスという言葉に聞かない日はありません。それが一日に何度でもです。先日の理事会でもコロナ対策について多くの時間を割いて話し合われました。施設に関わる皆さんが細心の注意をしてくださっておられるのは勿論ですが、今まで神様に守られていることを感謝しております。

今年のはじめに新型コロナウイルスの感染が広がりはじめて、はや八カ月、世界中が大混乱に陥っています。この影響は世界のすべてのところに及んでいるといっても過言ではないでしょう。世界がはじまってから人類は数々の疫病や災害に苦しめられ、又それ乗り越えてきた歴史がありますが、意味それは局地的、部分的であったように思えます。しかし、全世界を巻き込むこのコロナウィルスの勢いは今まで経験してこなかったことではないでしょうか。ウィルスの大きさは髪の毛の直径千分の一にもならない小ささなのだそうですが、目にも見えないう吹けば飛ぶようなものになす術がありません。AIを駆使し、一瞬で何十万人の人間を殺傷できる最強兵器を多量に持ち、全世界を思うように支配できると思ってきた人間が今、目に見え

ない小さな相手に翻弄されています。

最近ニュースでは「コロナ禍」という言葉をよく使うようになりまし。た。「禍」はわざわい、悪いことを意味します。確かに制限、失業、廃業などこのことによって多くの人が苦しんでいますし、亡くなられた方々も大勢いらっしゃると思います。

しかし、私はこの出来事を単なる「禍」として嘆き、苦しむだけに止めておいてはいけな思っています。歴史を振り返ってみると、何度も疫病で苦しんだ人類はその度に何かを学び、新しいものを生み出してきました。この出来事を神様からの忠告又は警句として受け止めるとき「何を捨てるべきか」、「何を守るべきか」私たちの新しい歩み方が見えてくるのではないのでしょうか。

世界にまだ未知のウィルスが何十万もいると言われている。いつそれに感染し拡大するかわからないそうです。温暖化、都市集中型の人口分布、人間による生態系の破壊など様々な問題に今こそ真剣に向き合わなければならぬときでしょう。こんな時に自分の国だけ守ろう、自分だけよければいいなど言っているは何もよくありません。

神様は世界を創造された時、「すべて良かった。」と言われました。私たちに与えられたこの世界をもっともっと大切にしたいものに変えていきましょう。

自分の足元から始めていきましょう。

満足してもらええる支援を

第二あゆみの家 生活支援員 高木 雄太

二〇二〇年に入ってまもなく、新聞・テレビなどで連日、コロナウィルスという言葉が聞かようになってきました。最初のころはまだ利用者さんたちと「こわいね。」といったつも、少し他人事のようなものだったと思います。ですが気が付くと岐阜県内でも感染が拡がり、非常事態宣言という今までに経験のない事態にまで事は大きくなっていました。

もちろん利用者さんたちにも大きな影響がでており、年一回で計画していた全員での旅行は今年度は中止、外泊や面会などご家族との関り、個別外出など外部に出かけることを一時的に自粛してもらおうなどの対応をしています。普段の活動についても生活棟と作業棟で人の配置を分けて活動するなどしています。利用者さんも最初は戸惑いもありましたが、少しずつ現状の支援について理解をしていただけたことに感謝です。

支援をする中で密を避けることに意識した支援が求められるています。そのため利用者さんの好きな活動でもあるドライブなどはバスに乗る人数を制限し、間隔を開けて乗ってもらうようにしています。バスに乗れない人たちは施設の乗用車数台に分けて乗ってもらい、極力ドライブに出掛けられるよう配慮することで、今までと変わ



魚つかみを楽しみました！

りない活動提供をできるように努めています。余暇支援などでも、魚つかみをみんな楽しんでいましたが、複数のグループに分けて、密にならないようにして魚つかみをしました。グループ制にして活動をするので一人一人の利用者さんとゆっくりと関わりを持てることもあり、利用者さんも自分のペース・やり方で魚つかみを楽しむことができました。

今年度は色々制限の中で生活をしていくことになりました。まだまだ我慢の連続の中で少しでも利用者さんには満足してもらええる活動を提供していければと考えています。

「生活をしているということ」

相談支援専門員 柳 葉子

新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活に色々な影響がありました。

大きな影響はない方や自粛がちょうど色々考える時間になった方もいれば、いつもと違う生活パターンやサービスマ利用が休止等になり不安を抱える方や休校中の大量の宿題に追われたり、日々感染への不安を抱えられている方、プライベートも仕事も常に気が張っている方もいました。

そうした中で、「こんなことをしたい」という思いや色々な感情を伝えてくださるAさん。仕事やサービスマ利用、異性のことやお洒落のこと等内容は多岐に渡ります。こうしたことに対して、「馬鹿なことを言っている」「問題ばかりを起こす」と言う支援者と、本人と一緒に考えて考える支援者がいます。Aさんが希望を実現していくために、今の支援体制が抱える大きな課題の解決は急務であり、今支援機関とともに動き出しています。また、Aさんも動き出しています。その一つに、本人主催の会

があります。本人主体の支援のもと、Aさんとサービスマ提供事業所とで何やら楽しそうに準備が進められた会は、時には真面目に、時には不真面目に進みながらも、本人の思いを皆で共有して次の一步に繋げていく機会になりました。まだ始まったばかりの会ですが、次回開催に向けて進められているようです。

コロナ禍であっても、勉強も仕事も買い物も子育てもきょうだい喧嘩も恋愛も進路も、生きていく中で色々な出来事が起き、色々な感情を抱きます。当たり前のことなのですが、新型コロナウイルス感染症の話題ばかりで、忘れがちになっていたように思います。今回、改めてそれに気づかされ、支援とは何かについても考えさせられる機会となりました。

関わらせていただいている方に、「コロナだからってストップなんてない！」と教えていただけること、疲労感漂う中で私自身の活に繋がっていることに感謝したいと思います。



新型コロナウイルスで私が思うこと

きずな2006・第二あゆみの家

看護師 北村 万貴子

二〇二〇年一月、国内での新型コロナウイルス肺炎患者が発表され、五月に緊急事態宣言をうけての外出自粛となりました。

あゆみの家でも感染症対策として手洗い・普段し慣れないマスクの徹底・三密場面を避けるという対策に取り組み、通所事業所の人数制限や活動の自粛、入所・グループホームにおける外出自泊制限により外食をテイクアウト式に変更しました。また、家族の方々と会えない寂しさと日常生活を制限されることに対し、どのように寄り添えるか、スタッフ間での話し合いも行いました。対策にも少しずつ慣れ、生活のリズムを取り戻してきたかと思っていたところ、再びコロナ感染の波が広がってきました。

今回、感染するのが怖い気持ちから家の中で過ごすことが多くなり、身体活動不足や座りすぎによる健康被害を防ぐため、家の中やその周囲において人と人の距離を

十分にとって実施する身体活動が大切だと思います。二週間不活動が続くと、骨格筋が減少し筋力低下が進みます。また、自分の身体状況にあった無理のない運動として筋肉に一定の負荷をかけた運動があります。一例として椅子に座って立ち上がるスクワット、壁に向かって両手をつき、つま先立ちをした後、かかとを床におろす運動、テーブルにつかまり足を曲げながらあげるバランススクワットという方法もあります。ラジオ体操も椅子に座って行うことができますので有効で、グループホームにおいても活用しています。

これからも個々での感染対策を続けると同時に、自宅でできる運動をおこない筋力維持に努め、普段の日常生活を取り戻し、皆さんがあゆみの家で集まれる日が訪れることを切に願います。



ホームで体操をしています

各種委員会活動の紹介

あゆみの家では、利用者へのサービス向上のため、各種委員会を開催しさまざまな課題に取り組んでいます。その活動状況を紹介いたします。

サービス管理責任者会議

担当者 田口 道治

サービス管理責任者会議は、あゆみの家の各事業所や施設に配置されているサービス管理責任者、サービス提供者、相談支援専門員、主任就労支援ワーカーら九人で構成されており、今年には既に二回（年間四回予定）開催しました。

この会議で取り進む内容は様々で、前年度（二〇一九）は、大きく見直された国のサービス管理責任者研修や相談支援専門員研修標準カリキュラムなどについて学習したり、サービスを利用される人たちの意思決定支援について、エピソード事例による演習に取り組みました。今年度は、現在進められている障がい福祉サービス報酬改定の検討に関する動向についての学びをしたりしています。

報酬改定作業での論議や、障害福祉計画・障害児福祉計画の基本指針では、「質の高い支援」、「質の高いサービス」が求められるようになっていきます。サービス管理責任者会議では、どうすれば「質の高い」支援やサービスを提供できるかを追求していきたいと考えています。

生産・販売委員会

委員長 大原 里美

デイセンターあゆみの家やぐっどらんどでは利用者の仲間たちと工芸品やクッキーなどの食品製造の取り組みを行っています。仲間たちが作り上げた製品が、多くの人に購入していただける場として、バザーなど多くの販売の機会があります。

購入につながるためには商品の改良やラッピング・ポップなど様々なアピールの仕方が重要なのですが、なかなか思う様にアイデアが浮かばないことがあります。また、生産・販売していく中で困りごとを、事業所間で超え、なかなか解決できないことを一緒に相談することができそうです。

仲間たちが作る様々な商品が一人でも多くの人に手に取ってもらえるよう活動しています。



クッキーなど焼き菓子



夏商品水まんじゅう



工芸品 10種類以上の商品

出来事ピックアップ



ぐっどらんど (7/25)
ドーナツ屋風喫茶(ドリームグループ)



デイセンターあゆみの家 (8/1)
リーダーモグラをやっつけろ! (オリーブG)



林町デイセンター (8/1)
水まんじゅうづくり



デイセンターあゆみの家 (8/1)
水鉄砲的あてゲーム大会 (サボテンG)



林町デイセンター (8/4)
水射的 (ポップコーングループのレク活動)



第二あゆみの家 (8/29)
流しそうめん

行事予定

- 10/23(金) 夜間避難訓練 (第二あゆみの家)
- 11/14(土) 合同職員研修会

最近のできごと (6/17~8/20)

- 6/26(金) 多目的喫茶(ホープグループ) (ぐっどらんど)
- 7/ 7(火) ポップコーンG七夕会 (林町デイセンター)
- 7/14(火) 駄菓子流し (林町デイセンター)
- 7/16(木) 避難訓練 (ぐっどらんど)
- 7/17(金) ビンゴでケーキをゲットしよう (グッディグループ)(ぐっどらんど)
- 7/25(土) かき氷を作って食べよう (第二あゆみの家) ドーナツ屋風喫茶(ドリームグループ) (ぐっどらんど)
- 7/30(木) 勉強会(摂食について) (林町デイセンター)
- 8/ 1(土) 魚つかみ大会 (第二あゆみの家) 水まんじゅう作り (林町デイセンター) お楽しみ活動(ゲーム大会) (デイセンターあゆみの家)
- 8/ 6(木) 勉強会(呼吸について) (林町デイセンター)
- 8/ 8(土) 夏祭り (第二あゆみの家)
- 8/10(月) プール (第二あゆみの家)

ふれあい交流、ボランティア (7/1~8/31)

新型コロナウイルス感染防止対策のため、しばらくの間、受け入れを停止させていただいております。

【8月4日】
魚釣りゲーム

デイセンター
あゆみの家



【8月18日】
かき氷作り

林町デイセンター



コロナ禍での食事風景 (きずな 2006)



編集後記

この半年間、日本だけでなく、世界中がコロナ一色に染まってしまいました。今回の広報紙のほとんどの記事でも、コロナ感染のことが取り上げられています。ほとんどの行事は中止になり、出張もなくなり、毎年行われてきた地域のお祭りも、地域のさまざまな会合もことごとくなくなってしまっています。本来、人は人とつながり、ふれあって、喜びや幸せを感じることができるのだと思うのですが、人と人が会うこともできず、できてもweb上でしか会えなかったりで、何か、中途半端ではがゆいような思いをしています。少しでも早く、このコロナ感染がおさまって、普通に人と人とがふれあうことができる社会に戻って欲しいと切に願います。(小林)

編集：社会福祉法人あゆみの家 URL <https://ayumi-ie.com/>
 〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2 E-mail ay464h@he.mirai.ne.jp
 Tel0584-22-4333 (代) FAX0584-22-4344

グループホームのご案内

- | | | | | |
|-------------------|---------------------|----------------------|--------------------|----------------------|
| ●あゆみホーム
大垣市三塚町 | ●めぐみホーム
不破郡垂井町表佐 | ●東神田ホーム
不破郡垂井町東神田 | ●別庄ホーム
養老郡養老町橋爪 | ●養老公園ホーム
養老郡養老町養老 |
| ●青柳ホーム
大垣市青柳町 | ●綾野ホーム
大垣市綾野町 | ●表佐ホーム
不破郡垂井町表佐 | ●習南ホーム
不破郡垂井町表佐 | ●あいかわホーム
不破郡垂井町 |